

2024年5月24日

2023 年度 決算概要

ソニー学園の決算結果の詳細は、2023 年度計算書類に記載しており、
以下は決算の概要について説明する。

学校法人会計について

学校法人会計における主な財務諸表は、下記の3つの計算書類である。

- 資金収支計算書 …… 計算書類(資料 B 1~3 頁)
企業会計のキャッシュフロー計算書に近いもので、当年度の学校法人の活動に付随する全ての資金の動きの内容を明らかにすることを目的としている。

- 事業活動収支計算書 …… 計算書類(資料 B 10~12 頁)
 - ・企業会計の損益計算書に相当し、学校法人の当年度の事業活動収支の状況を明らかにすることを目的としている。
 - ・事業活動を、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成している。
 - ・企業会計と異なる点は、企業会計の損益計算書にはない「基本金組入額」が表示されている点である。これは、学校経営を永続的に遂行していくことを前提に、必要な資産(土地、建物、機器備品、図書等)を継続的に保持するために必要な金額を示している。

- 貸借対照表 …… 計算書類 (資料 B 15~17 頁)
企業会計の貸借対照表に近いもので、学校法人の当年度末の財政状態、すなわち保有する資産と、負っている債務の状態を表示している。

以下、事業活動収支計算書より、順を追って決算の概要を説明する。

(1) 事業活動収支計算書

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成され、各活動区分の収支差額の合計となる基本金組入前当年度収支差額を計上したうえで、前年度からの繰越収支差額、当年度の基本金組入額、及び基本金取崩額を調整し、翌年度繰越収支差額を計上している。

① 教育活動収支

教育活動収入は、休学・退学生徒数の減少等による学生生徒等納付金の増収に加え、退職金財団交付金の増などにより、予算比で 24 百万円増加の11億 13 百万円となった。同支出は、赤字予算という厳しい財務状況を踏まえ、オンデマンドコンテンツの制作の厳選や不要不急の経費見直し等により教育研究経費と管理経費が削減され、さらに人件費の 8 百万円減少により、予算比で 58 百万円減少の13 億 74 百万円となった。この結果、教育活動収支差額は、予算比で 82 百万円改善したものの、2億 61 百万円の支出超過(赤字)となった。

② 教育活動外収支

教育活動外収入は、金利が上昇傾向にある中、より高い利率の債券への買替えを進め、受取利息と為替差益が予算比9百万円増加し、教育活動外収支は 99百万円の収入超過(黒字)となった。

③ 特別収支

特別収入は、有価証券売却による差益 52 百万円が発生し、予算比で52 百万円増加となった。

特別支出は、図書館の不要図書などの除籍による5百万円、債券償還差損 4 百万円、及び建物・備品等の処分差額 3 百万円が発生し、予算比で 3 百万円増加の12 百万円となった。この結果、特別収支差額は予算比で 49 百万円改善し、40 百万円の収入超過(黒字)となった。

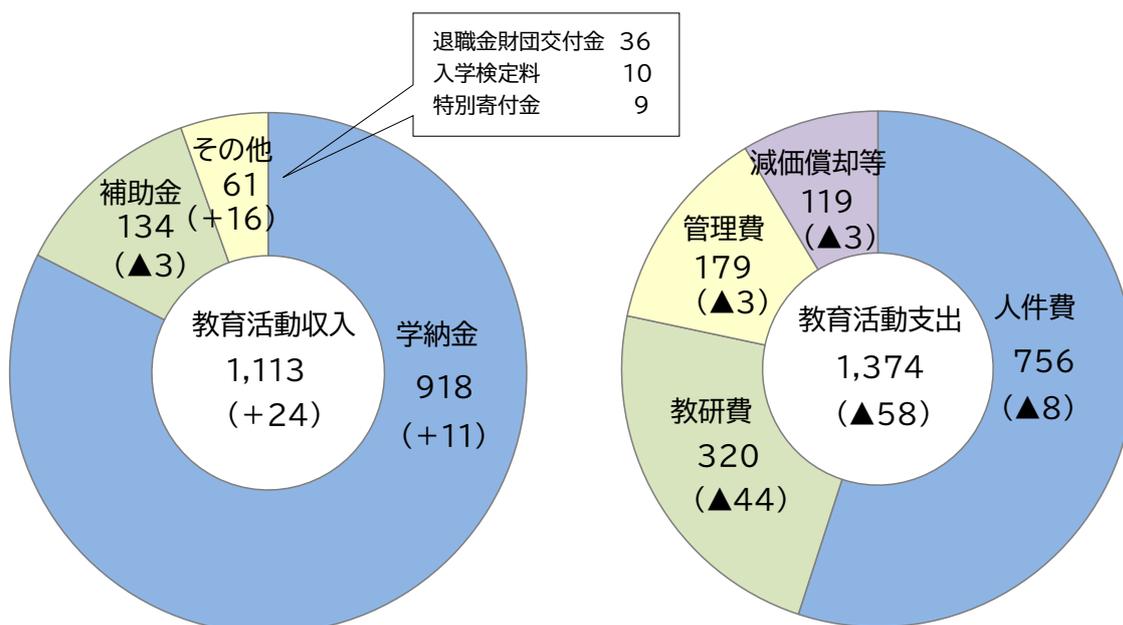
上記①から③により、基本金組入前当年度収支差額は、予算比で1億42百万円改善したが 1 億 22 百万円の支出超過(赤字)となった。

この基本金組入前当年度収支差額に、前年度繰越収支差額10億1百万円と基本金取崩額15百万円を加算し、基本金組入額5百万円を控除した結果、翌年度繰越収支差額は、8 億 89 百万円となった。

下表は、事業活動収支について、予算と実績を対比させたものである。
 また、収入・支出の内訳については、円グラフで表示した。なお、括弧内の数値は
 予算比の増減を示している。

(単位:百万円)

		2023予算	2023実績	差額
	学生生徒等納付金	907	918	▲ 11
	経常費等補助金	137	134	3
	その他	45	61	▲ 16
①	教育活動収入	1,089	1,113	▲ 24
	人件費	764	756	8
	経費	546	499	47
	減価償却費等	122	119	3
②	教育活動支出	1,432	1,374	58
③=①-②	教育活動収支	▲ 343	▲ 261	▲ 82
④	教育活動外収支	90	99	▲ 9
⑤=③+④	経常収支	▲ 253	▲ 162	▲ 91
⑥	特別収入	0	52	▲ 52
⑦	特別支出	9	12	▲ 3
⑧=⑥-⑦	特別収支	▲ 9	40	▲ 49
	予備費	2		2
⑨=⑤+⑧	基本金組入前収支	▲ 264	▲ 122	▲ 142
⑩	基本金組入額	▲ 5	▲ 5	0
⑪=⑨+⑩	当年度収支	▲ 269	▲ 127	▲ 142
⑫	前年度繰越収支	943	1,001	▲ 58
⑬	基本金取崩額	15	15	0
⑭=⑪+⑫+⑬	翌年度繰越収支	689	889	▲ 200



(2) 貸借対照表

(): 予算比増減

2023年度末の総資産は107億20百万円で、前年度比1億5百万円の減少となった。純資産(資産総額－負債総額)は99億51百万円で、前年比1億22百万円の減少となった。

資産・負債・基本金等の当年度末と前年度末との比較による主な増減要因は、以下の通りである。

<資産の部>

◆有形固定資産

(当年度末24億74百万円 前年度末25億31百万円 57百万円減少)

新規に取得した資産として63百万円を計上したが、図書資産等の処分及び既存資産の減価償却が進んだことで資産残高は減少した。

新規に取得した主な資産は以下の通りである。

○建物	(総額 33百万円)
4号館2階多機能トイレ工事	16百万円
4号館3階女子トイレ工事	12百万円
1号館研究室、4号館学友会室エアコン工事	5百万円
○教研・管理備品	(総額 28百万円)
全学ネットワーク機器更新	18百万円
PC教室システム端末及びサーバー更新	5百万円
ADサーバー入替	2百万円
防犯カメラレコーダー	2百万円
5号館キャンパスレストラン什器	1百万円
○図書	(総額 2百万円)

◆特定資産

(当年度末38億39百万円 前年度末38億56百万円 17百万円減少)

○第2号基本金引当特定資産

(当年度末30百万円 前年度末40百万円 10百万円減少)

将来取得する設備の取得に充てるための引当である。2024年度に取得予定の保育学科のML教室の設備投資用の特定資産が10百万円減少した。

○退職給与引当特定資産

(当年度末4億10百万円 前年度末4億17百万円 7百万円減少)

退職給与引当金要支給額の減少によるものである。

◆その他の固定資産

(当年度末38億 62 百万円 前年度末33億10百万円 5 億52 百万円増加)

○有価証券(長期)

(当年度末38 億 41 百万円 前年度末32億88百万円 5 億 53 百万円増加)

前ページの特定資産と合わせて、有価証券を 10 億50百万円購入し、
5 億15百万円売却した。

◆流動資産

(当年度末 5 億 45 百万円 前年度末11億28 百万円 5 億 83 百万円減少)

○有価証券(短期)

(当年度末 0 百万円 前年度末7億4百万円 7億4百万円減少)

満期償還による5億4百万円、早期償還による2億円の減少により、
7億4百万円の減少となった。2024年度に償還予定の債券はないため、
当年度末の残高は0となる。

○現預金

(当年度末4億 95 百万円 前年度末3億 75 百万円 1億 20 百万円増加)

<負債の部>

◆固定負債

(当年度末4億10 百万円 前年度末4億 17百万円 7 百万円減少)

○退職給与引当金

(当年度末4億10 百万円 前年度末4億 17百万円 7 百万円減少)

退職給与引当金要支給額の減少である。

◆流動負債

(当年度末3億 59 百万円 前年度末3億35百万円 24 百万円増加)

○未払金

(当年度末 1 億 19 百万円 前年度末82百万円 37 百万円増加)

当年度 3 月の設備投資と経費支出が多かったため、37 百万円増加した。

○前受金

(当年度末2億 33 百万円 前年度末2億47百万円 14 百万円減少)

2024 年度入学生から受領した学納金で、学生数の減少に伴い減少した。

<純資産の部>

◆第1号基本金

(当年度末64億25百万円 前年度末64億25百万円 0百万円増加)

◆第2号基本金

(当年度末30百万円 前年度末40百万円 10百万円減少)

将来取得する設備・備品に備えた基本金への組入れである。

2024年度に取得予定の保育学科のML教室の設備投資用の基本金が10百万円減少した。

◆翌年度繰越収支差額

(当年度末8億89百万円 前年度末10億1百万円 1億12百万円減少)

事業活動収支計算書の項を参照ください。

総資産、負債及び純資産の内訳は以下の通りである。

なお、括弧内の数値は、当年度末と前年度末の比較による増減を示している。

固定資産	10,175 (+478)	負債の部	769 (+17)
有形固定資産	2,474 (▲57)	固定負債	410 (▲7)
特定資産	3,839 (▲17)	流動負債	359 (+24)
その他の固定資産	3,862 (+552)	純資産の部	9,951 (▲122)
流動資産	545 (▲583)	第1号基本金	6,425 (±0)
資産の部合計	10,720 (▲105)	第2号基本金	30 (▲10)
		第3号基本金	2,500 (±0)
		第4号基本金	107 (±0)
		翌年度繰越収支差額	889 (▲112)
		負債及び純資産の部合計	10,720 (▲105)

(3) 資金収支計算書

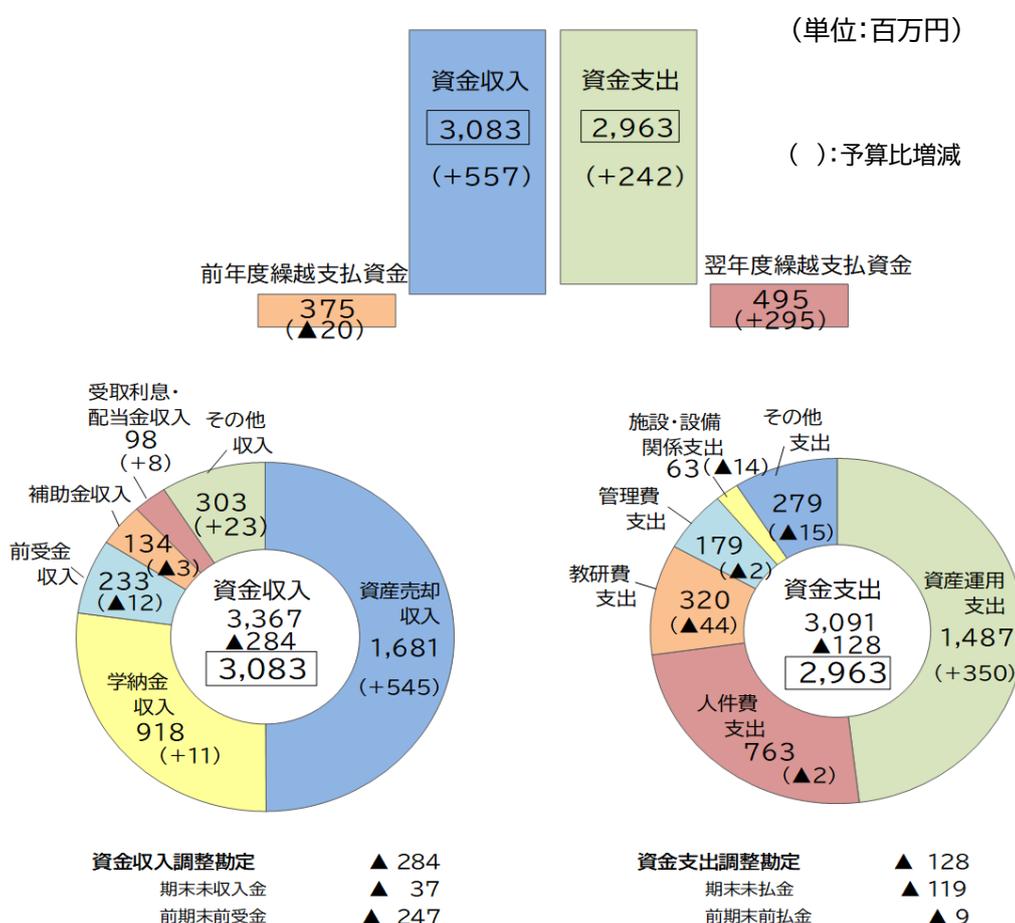
本年度の資金収入の総額は30億83百万円、資金支出の総額は29億63百万円で、収支は1億20百万円の収入超過となり、その結果、翌年度繰越支払資

金は4億95百万円となった。

以下、収入の部と支出の部に分け、予算比での増減要因を説明する。

収入の部：総収入は、予算比で5億57百万円増加の30億83百万円で、主な要因は、債券入替えに伴う資産売却収入5億45百万円の増加である。

支出の部：総支出は、予算比で2億42百万円増加の29億63百万円で、主な要因は、債券入替えに伴う資産運用支出3億50百万円の増加と教研費支出44百万円の減少である。



(4) 資金の運用状況

① 有価証券の保有状況

2023年度末の有価証券保有高は76億81百万円で、前年度末比1億69百万円減少した。

なお、保有有価証券76億81百万円のうち、38億39百万円は特定資産(退職給与引当、減価償却引当、第2号・第3号基本金引当)として引当を行っており、

残る 38 億 42 百万円(短期 0 億円、長期 38 億 42 百万円)を有価証券として貸借対照表に表示している。

② 有価証券の購入と売却・償還

有価証券の購入は、債券10億 50 百万円であり、償還は、早期償還 2 億円、満期償還 5 億 4 百万円の計 7 億 4 百万円で、売却は、債券4億15 百万円、投資信託1億円の計5億15 百万円となり、差引き1億69百万円の残高減少となった。

③ 受取利息・有価証券売却差額

受取利息収入は98百万円、売却差益が52百万円、為替差益1百万円があり、年平均利回りは1.9%で、前年度比0.9ポイントの改善となった。

以上